

原作◎水上勉 篠田正浩監督作品

はな水替女おりん



製作◎岩下清

飯泉征吉

脚本◎長谷部慶次

篠田正浩

この愛は

女が一生見ることのできなかった

美しい自然の中へ溶けこむように

消えていった...製作■表現社・配給■東宝株式会社

東宝

岩下志麻 * 奈良岡朋子 * 樹木希林 * 加藤嘉 * 浜村純 * 桑山正一 * 不破万作 * 殿山泰司 * 山谷初男 * 横山リエ * 神保共子 * 原泉 * 嶺川貴子 * 安部徹 * 小林薫 * 西田敏行 * 原田芳雄

11月ロードショー
特別鑑賞券発売中

(一般当日1300円の処)
¥1,000

ヒビヤ みゆき座
TEL 591-5357



● スタッフ

製作 岩下 清

原作 飯泉征吉

脚本 飯泉征吉

脚本 長谷部慶次

監督 篠田正浩

台詞 長谷部慶次

製作 表現社

配給 東宝株式会社

カラースタンダード

● キャスト

おりん 岩下志麻

大男 原田芳雄

テルヨ 奈良岡朋子

ツギ子 神保共子

カネ子 横山リエ

ヤス子 宮沢亜古

ミツ子 中村恵子

炭焼男 殿山泰司

今西万三郎 桑山正一

一瀬たま 樹木希林

監督 篠田正浩

撮影 宮川一夫

美術 栗津 潔

音楽 武満 徹

録音 西崎英雄

照明 佐野武治

袴田虎三 小林 薫

助太郎 西田敏行

老婆 原 泉

おりん 少子 嶺川貴子

小杉 不破万作

山下 山谷初男

別所彦三郎 安部 徹

斎藤 浜村 純

伊助 加藤 嘉

● 物語

生れ在所は、若狭の仏谷(はろや)ときいてます。お父の顔も、お母の顔もみたことありません。六つの時に齋藤というおどにつれられて、越後高田里見替女屋敷の弟子になりました。あれから二十年でございます。二十一のとき、おら、ふしたら女じや云はれて、里見の替女屋敷から落されました。はえ、替女は、おらのような盲目女が仲間になつて、三味線かたがて、歌ばうたうて、村の替女宿さ泊るのがきまりでござります。仲間を落され、はなれ替女になれば、一人で門付けして、誰もいねえ破れ小舎だの、雨もりする御堂さ寝泊りして歩くんであンス、おら、素姓も何もわからぬ男に手引して貰うて、十日も二十日も旅したことがあります。おら夜這いの相手したこともありま。どげな男でも拒んで去なしたこともありま。おら、軀まかせてなんぼかでも銭もらいますた……

大正七年、春まだ浅い薄暮の夕、おりんは、山間の破れ阿弥陀堂で一人の大男と出合つた。

翌日から、魔寺の縁の下や地蔵堂を泊り歩くといふ、二人の奇妙な旅が始まつた。

五月、木賃宿の広間で、漂客や酔客相手に、おりんが「八百屋お七」を語っている時、大男は、その客に酒を注いだり、投げ銭を拾い集めていた。

六月、大男は、金物屋で、ノコギリ、カンナ、ノミ等を買入れる。その夜、料理屋の宴席で「口説き節」を唄うおりんの声を聞きながら、大男は、その勝手口で、下駄の歯のおしや鼻緒のすげかえをして

いた。

七月、海見える馬喰の家で、大男は大八車を買入れる。数日後、大八車には、ふえた荷や二人の所

入る。

帯道具が積み込まれていた。

八月、柏崎の薬師堂で大きな緑日が開かれた。様々な露店が立ち並び境内の一隅に、下駄を作る大男と、出来上つた下駄をフクサでみがき上げるおりんの姿があった。

が、二人にとって、思いもよらぬ事件が起る。札をもらわずに店をはつてしまつた大男が、土地のヤクザに呼び出される。

「おりん、ちよつと行つてくる」

参道を、夏の夕立ちがおそ。雨雲が晴れた時、香具師仲間の一人である別所彦三郎によつて、おりんは、松林の浜辺で帯をとかれていた……

松林の中で、大男は、すべてを見てしまつた。大八車の道具箱からノミを取り出した大男は、松原を走り去つた。

やがて、波音も無い静かな渚に坐りこんだままのおりんの前に、大男が立つ。

「おりん、当分おらと別れてくらそや、おら、おみアをさがして、必ずまた一緒にいるから、いいな」

「なら、兄さまは、どつちへ行く」



篠田正浩監督

はなれ替女おりん

秋、おりんは、黒川の六地藏で出合つた、はなれ替女のおたまと共に、南へ向つていた。

冬、大男は、別所殺しの殺人犯として警察に追われていた。さらに意外なことは、大男は、福井県鯖江憲兵隊分隊所属の脱走兵としても追われていた。残雪を残す若狭の山に春が訪れる。

おりんとおたまは、今、若狭の片手観音堂に来ていた。

そんなある日、参詣人でにぎわう境内で、おりんの足が止まる。

「おりん、おりんでねえか」

人こみの中からその声は……

その夜、大男は、初めておりんを抱く。

翌朝から、二人は、二度目の旅を始める。

しかし、その旅は……、二人の背後に、憲兵中尉袴田虎三のきびしい男の目が迫る……